

黒埼商工会景況調査報告書

1. 調査要領

(1) 調査対象

- ア 対象地区 黒埼商工会地区内小規模事業者
イ 調査企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
ウ 回答企業数 30 事業所 (うち小規模事業者数 30 事業所)
(回答率 100.0%)

(2) 調査対象期間

- 令和4年7月～令和4年12月
(調査時点 令和4年12月1日)

(3) 調査方法

- 経営指導員等による巡回または窓口によるヒアリング調査

(4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
製造業	4	13.3%	4	13.3%
建設業	7	23.3%	7	23.3%
卸・小売業	7	23.3%	7	23.3%
サービス業	12	40.0%	12	40.0%
合計	30	100.0%	30	100.0%

2. 地域内産業全体の景況概要

全業種において仕入単価の上昇が経営上の問題点としてあがっており、販売価格への転嫁も難しいことから採算の悪化へと繋がっている。建設業では従業員の確保が依然として困難な状況にあり、業界の高齢化が進む一方、若手が入らないことが推察される。また、卸・小売業とサービス業では景況判断を悪化とする事業者がほとんどで、令和5年の見通しを好転とした事業所は0%であった。

【後継者の状況】

後継者がいる事業所は30%であり、70%の事業所には後継者がおらず、事業承継が課題となっている。

後継者 あり	9事業所	30.0%
後継者 なし	21事業所	70.0%

【売上高】

売上高は、前年同期比で減少とした事業所が50%と最も多く、前期比では減少とした事業所が33%であった。一方、売上が増加と回答した事業所は、前年同期比で全体の30%、前期比で36%であったが、今後の見通しにおいては全体の10%となり、増加とする事業所が大幅に減少している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
10	5	15	11	9	10	3	12	15

【採算】

採算は、前年同期比、前期比、今後の見通しのいずれにおいても、好転とした事業所が最も少なく、その数も段階的に減り今後の見通しでは3%となっている。一方、不変とした事業所は全体の約40%となっており、また悪化すると回答した事業所も約40%おり今後の見通しではさらに増え50%となっている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
5	12	13	4	14	12	1	14	15

【仕入単価】

仕入単価は、前年同期比、前期比、今後の見通しにおいて、上昇と回答した事業所が73%～76%と最も多く、仕入単価の上昇を課題とする事業所が多いことが推測される。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
22	8	0	23	7	0	23	6	1

【販売（客）単価】

販売（客）単価は、前年同期比、前期比、今後の見通しのいずれにおいても不変と回答した事業所が56%～66%と最も多かった。今後の見通しにおいては、66%の事業所が不変、10%の事業所が低下、23%の事業所が上昇と回答している。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
上昇	不変	低下	上昇	不変	低下	上昇	不変	低下
9	17	4	9	18	3	7	20	3

【資金繰り】

資金繰りは、好転と回答した事業所は、前年同期比において3%、前期比において3%、今後の見通しにおいては0%となっている。一方で不変と回答した事業所は、前年同期比及び前期比において73%、今後の見通しにおいては83%となっており、好転・悪化とする事業所を大きく上回っている。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
1	22	7	1	22	7	0	25	5

【雇用動向】

雇用動向は、前年同期比、前期比、今後の見通しのいずれにおいても、不変と回答した事業所が全体の80%以上となっている。雇用動向は大きく変わらない状況が続くと予想される。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
増加	不変	減少	増加	不変	減少	増加	不変	減少
1	24	5	0	26	4	0	27	3

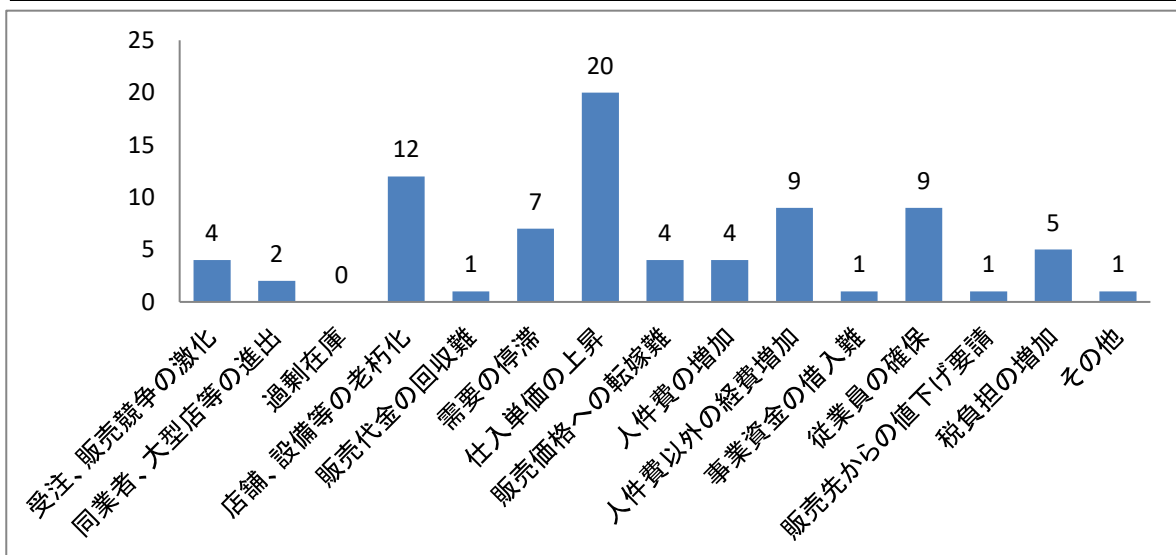
【景況判断】

景況判断は、前年同期比、前期比、今後の見通しにおいて、不変と回答した事業所が全体の約5割と最も多かった。今後の見通しにおいては、好転とする事業所が3%であるのに対し、悪化とする事業所が43%となっており、厳しい状況が続くと予想される。

前年同期比			前期比			今後の見通し		
好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化
2	16	12	2	15	13	1	16	13

【経営上の問題点】

経営上の問題点は、仕入れ単価の上昇が最も多く、次いで店舗・設備等の老朽化、人件費以外の経費増加、従業員の確保と続いている。
また、需要の停滞や、税負担の増加、受注・販売競争の激化など、問題点は多岐に渡っている。



3. 産業別景況概要

(1) 製造業

製造業者から新型コロナウイルス感染症の影響についてあがった意見は以下のとおり。

- ・売上が減少、仕入価格の上昇でコロナウイルスの影響が大きい

今後の事業・経営において強化したい点としてあがった意見は次のとおり。

- ・新規の販路開拓が今後も課題、食品向けの展示会へ出展したい

地区内製造業に係る景況状況は、景況判断によると、悪化とした事業所が前年同期比50%、前期比75%、今後の見通し50%と最も多く、対して好転とする事業所は25%であった。経営上の問題点として、一番多くあがったのは仕入単価の上昇と人件費以外の経費増加で、次いで従業員の確保となっている。

(2) 建設業

建設業者から今後の事業・経営において強化したい点としてあがった意見は次のとおり。

- ・人材確保の強化

地区内建設業に係る景況状況は、景況判断によると前年同期比及び前期比においては好転とした事業所が14%と最も少なく、今後の見通しにおいて好転とした事業所は0%であった。対して、悪化とする事業所も前年同期比、前期比で14%、今後の見通しでは28%となっており、増加している。不変とした事業所が全期で最も多く71%であった。

経営上の問題点としては、仕入れ単価の上昇と回答する事業所が最も多く、次いで従業員の確保となっている。

(3) 卸・小売業

卸・小売業者から新型コロナウイルス感染症の影響についてあがった意見は以下のとおり。

- ・社員の感染により人員不足
- ・売上が回復しない、価格高騰についてお客様にあきらめ感がある
- ・催事の集客に多少なりとも影響があり売上減少につながる

今後の事業・経営において強化したい点としてあがった意見は次のとおり。

- ・作業効率を上げるための設備投資
- ・店舗の空きスペースの有効活用

地区内卸・小売業に係る景況状況は、景況判断によると前年同期比で悪化とした事業所が42%、前期比、今後の見通しでは57%と最も多かった。次いで、不変が前年同期比で57%、前期比、今後の見通しでは42%であった。好転とする事業所が0%であり、厳しい状況が続くと予想される。

経営上の問題点として、一番多くあがったのは店舗、設備等の老朽化、需要の停滞、仕入単価の上昇で、次いで受注・販売競争の激化、同業者・大型店頭の進出、人件費以外の経費増加、となっている。

(4) サービス業

製造業者から新型コロナウイルス感染症の影響についてあがった意見は以下のとおり。

- ・売上が減少、仕入れ価格は上昇でコロナウイルスの影響は大きい
- ・来店者数減少、リモートに対応できず
- ・仕入れ価格高騰で量販店に負ける
- ・コロナだけの影響ではないが、全て値上がりしている。お客の来店頻度が長くなっている

今後の事業・経営において強化したい点としてあがった意見は次のとおり。

- ・水回り、トイレの水洗化
- ・設備投資

地区内サービス業に係る景況状況は、景況判断によると前年同期比では不変とした事業所と悪化とした事業所がいずれも50%であり、好転が0%となっている。前期比と今後の見通しにおいては不変と回答する事業所が58%と最も多く、次いで悪化が42%、好転は0%であった。

経営上の問題点として、一番多くあがったのは店舗・設備等の老朽化、仕入単価の上昇で、次いで人件費以外の経費増加となっている。